

子どもたちは好奇心が旺盛。子どもは誕生直後から興味(関心)や満足の感情を持つとされ、生後3か月ほどで喜びや驚きの感情も芽生えます。

科学遊び、それは自然に親しみ、自然の美しさや不思議さに驚き、さまざまな命の大切さに気づく心が育つ遊びです。自然の中では、ワクワクドキドキする遊びを子どもたち自らが見つけだします。

絵本「みずとはなんじゃ?」。かこさとし氏晩年の作品です。鈴木まもる氏がかこ氏から本作の完成を託され、残された下絵を元に絵を手掛けました。水は胎児期からごく身近な存在。胎児は出産まで温かい母体と羊水に守られているからこそ、安心して子宮の中で過ごし遊べているのです。だから子どもは水が大好き。暮らしの中で出会う水を通して水を感じ、水の不思議さを知り、自然の力を感じる絵本です。

かこ氏は、子どもたちの未来、そして自然界の未来まで推測し、20年後にも通用する見通しをもって科学絵本づくりをされてきました。

「たねがとぶ」。たねは、くさの つくった くさの こども。やがて、くさの こどもは たびに である。どこにでもある居心地よさそうな草むらの風景。雑草のたねが風にのってとぶ瞬間が、躍動的写実的に水彩画で描かれています。自然界の不思議を感じながらも、雑草までも愛おしくなりその息づかいを感じます。草花と昆虫そして人間の共存を、大人も子どもたちと一緒に体感したいものです。

科学遊びは、知的好奇心がくすぐられ、感動したり想像したりする心、人や自然を大切にする心、たくさんの心を育てます。

子どもたちは一緒に遊び込んでくれる大人が大好きです。私たち大人も子どもとの遊びの中で、新たな子どもの発達や感性、多くの気づきを得ることができます。

新緑の5月、自然の中で息吹をいっぱい感じながら、子どもたちと共に心地よい遊びのひとときを過ごされてみませんか。

「みずとはなんじゃ?」 かこさとし 作 鈴木まもる 絵 小峰書店

「たねがとぶ」 甲斐信枝 作 森田竜義 監修 福音館書店